

日本フランス語フランス文学会東北支部大会（石巻専修大学）総会  
2015年11月7日(土)16:40~17:30

## 日本フランス語フランス文学会東北支部大会 総会記録

議長：後藤 尚人(岩手大学)

山本昭彦（岩手大学）支部長より、支部規約（配布資料2）第9条の①により、運営委員会から議長に後藤尚人氏（岩手大学）を指名したことを告げた。

※後藤尚人議長より、議事に入る前に、配布資料には、

- ・総会次第
- ・昨年（2014）度の総会記録
- ・資料1：日本フランス語フランス文学会東北支部会会員名簿
- ・資料2：日本フランス語フランス文学会東北支部規約
- ・資料3：東北支部 役員任期一覧
- ・資料4：支部運営委員会開催に伴う交通費についての内規（案）

が含まれていることを確認した。昨年度の総会記録について気づいた点があれば、随時受け付ける旨を告げて議事に入った。

### I 報告事項

#### 1 各種委員会報告

##### 1) 役員会

山本昭彦支部長より、以下の報告があった。

秋の全国大会（京都大学）での役員会、学会奨励賞選考委員会、総会に出席してきた。詳細は代表幹事の報告、および「学会ニュース」に譲るが、会員の減少への対策、それに関連する支部運営の問題なども話題となった。学会奨励賞への応募は、支部から推薦、という形を取っている。しかし支部の役員も目の届いていないところがあるかもしれないので、これは、という情報があれば（自薦も含め）、支部役員あるいは支部長に伝えて頂きたい（他支部の会員の業績を推薦する事も可。つまりまた、東北支部会員の業績が他支部から推薦されることもあり得る）。

##### 2) 幹事会

熊本哲也（岩手県立大学）支部代表幹事より、以下の報告があった。

[報告事項]

- ・本会の現在の会員数について報告。個人会員 1162 名、昨年度との推移では 41 名の減少。学生会員は 15 名増。
- ・幹事会の開催、5月31日、9月13日、10月31日に開催された。

- ・6月の幹事会MLにて、会員数減少に関する対策検討ワーキンググループが設置された。
- ・文科省の「国立大学」通達に関して日本学術会議の話し合いに参加。閉会后、英文、独文、仏文の連絡会議が開かれ、学術会議の声明への賛同と三学会で「通達」に抗議する旨を連絡会に提案することとした。秋季大会の際、京都大学にて集会を有志で開催した。
- ・委員会では特に編集委員会に関して。新たに編集することになった新雑誌『LITERA』の編集体制を検討中であること。教員たちからの質の高いフランス語の論文投稿を募っていることを報告した。また、語学教育委員会では、関東支部3名の委員がスタージュ委員を兼務することが報告された。

[協議事項]

- ・NII-ELSの事業終了に伴い、学会誌の公開方法の変更が協議され、移行先をJ-STAGEにすることが決まった。それに関連して、各支部論集の公開方法について支部で検討するように要請することが議論された。
- ・渉外委員会がシンポジウムを企画する際に、内容を『LITERA』へ掲載することとして、編集委員会と調整・支援することが議論され決定した。

### 3) 支部運営委員会

山本昭彦支部長より、以下の報告があった。

東北支部「拡大」運営委員会を、新旧の代表幹事、運営委員および支部大会開催校の大谷尚文先生の出席を得て、2015年7月11日に開催した（東北大学にて）。

- ・支部運営の各業務の引き継ぎを行った。
- ・来年度の役員候補を選出した。

支部長には、阿部宏氏（東北大学）を推薦する。

語学教育委員には、間瀬幸江氏（宮城学院女子大学）を推薦する。

- ・支部運営委員会開催時の旅費補助規程について検討した。旅費補助はこれまでも行ってきたが、規程を明文化することとした。
- ・今秋、石巻での支部大会の準備を行った。
- ・次の支部大会は山形で行うことを確認した。
- ・各種情報交換を行った。

### 4) 渉外委員会

合田陽祐（山形大学）委員より以下の報告があった。

10月31日に開かれた全国大会（於 京都大学）での渉外委員の会議に参加した。議題は、平成28年度の仏語学会誌『LITERA』のためのシンポジウムの公募手続きについてである。この公募は、平成27年11月に開始（日本フランス語フランス文学会秋季大会HPで通知）となる。後援の対象となるのは、平成28年5月から12月に開催されるシンポジウムである。その後審議にかけ、学会の委員会で正式に後援シンポジウムを決定

し、平成 29 年 3 月発行の『LITTERA』に議事録を掲載する。2016 年度には青山学院大学でロラン・バルトのシンポジウムが開かれる。また同年はアンドレ・ブルトン没後 50 年にあたる。後援補助の金額は、科研費申請が認められなければ 30 万円をシンポジウム一件に、認められれば二件（60 万円分）を補助する。後援への応募がなかった場合は、二次募集をかけ、場合によっては渉外委員会委員長が中心となって起案を行い、企画調整を行う。ただし、あくまで渉外委員会の作業としては調整・支援にとどまる。後援の条件は、仏語学会誌『LITTERA』掲載にふさわしい掲載記事が 3 本～4 本できるシンポジウムであることとする。以上の合意決定がなされた。

#### 5) 語学教育委員会

横井雅明（岩手大学）委員が欠席のため、中里まき子（岩手大学）運営委員より以下の内容が代読された。

春季：平成 27 年 5 月 30 日（土）、明治学院大学にて開催された。

議題 1：2015 年度委員長・副委員長の選出について

今年度委員長に福田美雪（獨協大学）、副委員長に茂木良治（南山大学）の各先生を選出した。

その他議題は省略。

秋季：委員会は不開催であった。

#### 6) 研究情報委員会

翠川博之委員より、以下の報告があった。

- ・冊子版 cahier 15 号を 3 月に、16 号を 9 月に発行した。
- ・電子版 cahier において、冊子版 cahier 全バックナンバーの公開が完了した。
- ・同じく電子版 cahier に、新たな研究レビュー 3 本を追加した。

#### 7) 広報委員会

宮本直規（東北学院大学）委員より、以下の報告があった。

2015 年 5 月 30 日（土）の春季大会に委員会が開催された。広報委員会の活動としては

・「学会ニュース」148 号、149 号、150 号の版下作成と校正を行い、それぞれ 12 月、3 月、7 月に発行した。151 号にむけて、研究発表司会者に原稿依頼をおこなっている。原稿締切の遅延により発行スケジュールが圧迫される事態を避けるべく、執筆者は締切を守ってほしい。

・学会ホームページに掲載するイベント情報について、更新・確認の作業を輪番で担当している。

・委員会では新委員長および副委員長の選任が行われた。新委員長に小林拓也先生、副委員長に中村翠先生・松原陽子先生が着任された。また学会ニュース、ホームページに関する引継ぎが行われた。

#### 8)学会のあり方検討委員会

山崎冬太（東北学院大学）委員より、次の報告があった。

今年度第1回のあり方検討委員会が、以下の日時・場所で行われた。山崎冬太は欠席したが、議事録により報告する。

日時 2015年5月30日9時30分-9時50分

場所 明治学院大学 本館 1503教室

議題

- ・委員任期の確認

委員の半数が交代した。

- ・世話人の選出

世話人千葉文夫先生の任期終了にともない、委員の互選により新たに鈴木啓二先生を世話人として選出した。

なお、秋の学会開催時のあり方検討委員会は、執行部からの諮問がないため、開催されなかった。

#### 9)監査

大谷尚文監査より、事務局から東北支部の会計に関する書類が送られ、収入・支出とも適切に会計処理が行われていることを確認したとの報告があった。

#### 2 支部会誌編集委員会報告

辻野稔哉（秋田大学）運営委員〔支部会誌担当〕より、以下の報告があった。

この一年間の活動としては、昨年の福島での支部大会での発表等をもとに、Nord-Est 第8号のweb版を2015年5月20日に発行した。また、同8月15日に7・8号の合併号を冊子体として発行した。新旧運営委員の先生方を始め、会員の皆様方には、様々な形でご協力いただき感謝申し上げます。今後は、より円滑な編集作業に努めたい。

#### 3 支部会員の登録状況

阿部いそみ（東北文教大学短期大学部）運営委員〔総務担当〕の欠席により、中里まき子（岩手大学）運営委員〔会計担当〕より、以下の報告があった。

資料1のとおり、本年（2015）度の支部会名簿を作成した。会員数は、普通会员45名、学生会員2名の計47名である。

#### 4 その他

後藤尚人議長より他に報告事項の有無を確認したが、なかった。

## II 協議事項

### 1 役員の選出について

#### 1) 役員に関する支部規約の確認

後藤尚人議長より、資料 2 に基づき、支部規約第 6 条及び運営細則第 1 条&第 2 条を確認した。

(今回選出される役員の任期は、2016 年春季全国大会時の総会翌日から始まる)

#### 2) 役員及び任期の確認

中里まき子運営委員より、資料 3 (役員任期一覧) に基づき、役員の任期を確認するとともに、「支部長」と「語学教育委員」を選出する必要がある旨、確認した。

#### 3) 支部長の選出

後藤尚人議長より、運営細則第 1 条④に基づき運営委員会へ推薦を求め、山本昭彦支部長から、阿部宏氏(東北大学)が推薦された。

続いて、後藤尚人議長より、運営細則第 1 条⑤により、会員へ立候補を求めたが、立候補者がおらず、阿部宏氏が支部長に選出された。

#### 4) 語学教育委員の選出

後藤尚人議長より、運営細則第 1 条⑨に基づき運営委員会へ推薦を求め、山本昭彦支部長から、間瀬幸江氏(宮城学院女子大学)の推薦があり、間瀬氏が選出された。

### 2 支部運営委員会開催に伴う交通費についての内規(案)

山本昭彦支部長から、資料 4 に基づき、7 月 11 日に行われた支部運営委員会での決定を受けて、支部運営委員会開催に伴う交通費についての内規が提案された。質疑を経て、大筋で了承された。さらに文言の整理を行い、2016 年度より施行することとした。

### 3 次期開催校について

山本昭彦支部長より以下の提案があった。

ローテーション上で山形での開催になる。しかし、来年度は東北大学で本会が開催されるので、それとはまた別に支部会として研究発表やシンポジウムなどが準備できるかどうか、不安がある。また支部の中には、支部圏内で本会を引き受けた年度は支部会を開催しない、としているところもある。次回は山形ということだけを共通理解にしておいて、開催を来年にするか再来年にするかは当面未定にしておいてはどうか。

質疑を経て、この提案が認められた。

#### 4 その他

熊本哲也支部代表幹事より、支部会報の電子化について以下の補足説明があった。

本会の学会誌はこれまで CiNii（国立情報学研究所）で公開されていたが、これが廃止されたために、J-Stage（科学技術振興機構）に移管される。これに伴い、支部会報の扱いについて回答を求められている。文科省は国内の学会誌を J-Stage にまとめることを考えているようだ。移管にあたっては費用もかかるが、これがどの程度の額なのかまだ不明で、広報委員会も情報を収集中である。

この後に、種々の議論や情報交換を行った結果、「現在の支部会のサーバーでの支部会報の公開を継続しつつ、当面は様子を見る。」ことに決定した。

関連して、山崎冬太氏から「支部会報掲載論文の海外他誌への転載が認められるかどうか」という質問が提起され、「支部会報掲載論文の他誌への転載」の扱いについて運営委員会で検討することとした。

後藤尚人議長より、他に議題の有無を確認したが、なかったため、総会終了が宣言され閉会となった。